

体育科学習指導案

指導者 熊野町立熊野第四小学校
教諭 ○○ ○○

- 1 日時 令和5年11月30日(木) 第3校時 熊野第四小学校体育館
- 2 学年 第3学年
- 3 単元名 「高とびでトン・トン・ト・ト・ドン!自分との勝負!」
C 走・跳の運動 エ 高跳び

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編第3・4学年「C 走・跳の運動」「エ 高跳び」を受けて設定した。高跳びでは、その行い方を知るとともに、短い助走から強く踏み切って高く跳ぶこと(知識及び技能)や、自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える力(思考力、判断力、表現力等)、運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりする力(学びに向かう力、人間性等)を育成することをねらっている。

(2) 教材観

本教材では、高跳びを「助走」と「踏切り」の2つの動作に分けて学習する。単元名を「高とびでトン・トン・ト・ト・ドン!自分との勝負!」とし、2つの特徴を設けることとした。

1点目は、高跳びにおける動作の視点を「助走」と「踏切り」に簡易化している点である。高跳びを学習することは第3学年で初めてであるため、動作の視点を絞ることで児童1人1人が取り組みやすい。また、単元を通してチームの仲間がアドバイザーとなって学習を進めていくことから、動作の視点を絞ることで、他者の動作を見る力の向上に繋がると考える。

2点目は、バーの代わりにゴム紐を活用している点である。先述したように、高跳びを初めて学習するため、ゴム紐を活用することで、児童の恐怖心が少しでも和らぐことをねらいとしている。単元を通して、「引っかかっても大丈夫!」「もっと跳んでみたい!」「跳ぶことって楽しい!」という肯定的な気持ちで学習に臨めるようにしていきたい。

また、本単元では、毎時間ミニ記録会を設定し、自分の記録を計測していく。ポートフォリオ等を活用して、自分の記録の伸びだけでなく、自己の課題発見・解決へと繋げていきたい。

(3) 児童観

児童の実態については、アンケートをもとに記入しています。

(4) 指導観 (太字網掛けは共生の視点・太字下線は関わり合いの視点)

指導にあたっては、単元のゴールに「カラスカップ～高跳びの部～」を設定し、個人種目の高跳びにチーム対抗戦というゲーム性を取り入れる。身長と50m走の記録から目標記録を出すノモグラムを活用し、チームの仲間と共に運動をする楽しさや、面白さを味わわせたい。

また、リフレクションタイム (以下: RT) の充実を図ることで、児童の振り返りの質を高めていく。学級の実態として、児童1人1人に振り返りを大切にするという意識は根付いているが、振り返りの質が低い児童も見られる。そこで、振り返りの質を高めていくために、2種類の RT、そして動きを確認するための人形 (Mr、RT) を取り入れることとする。まず、RT を①「やわつ RT」(やったこと、分かったこと、次にやること) と②「よかち RT」(よかった点を続ける、課題点を見付け、挑戦する) に分けて取り組んでいく。①「やわつ RT」では、自分やチームの仲間が取り組んだことや経験したことを適宜振り返る。この RT を毎時間設定し、運動→振り返り→運動というサイクルが確立させ、運動に関わるポイントを明確にしていくことで、児童の振り返りに変容が生まれるようにしていく。②「よかち RT」では、第二次と第三次の学習内容をまとめていき、次に何をすればいいのかを明確にするために振り返る (単元モデル参照)。自分やチームの仲間がステップアップするために、「やわつ RT」での振り返りを集約していく。この RT により、自分の次の取組が明確にし、振り返りの質を高めていく。さらに、振り返りを充実させるために人形 (Mr. RT) で高跳びの動きをスローモーションで確認できるようにする。助走から着地までの動作に時間がかからないため、児童の手本ではポイントを確認することが難しいと考えられる。そのため、人形 (Mr.RT) を活用して本時の身に付けさせたい動きに注目させ、RT を行い、児童1人1人が動きのポイントを理解できるようにしていく。

自己や他者の課題に気付かせるための1つの方法として、試しの運動やミニ記録会をするときに客観的に他者の様子を見ることが出来るアドバイザーを設定しておく。活動を通して学ぶことと同様に、見て学ぶことや気付くことも多いと考える。RT と組み合わせることで、自分だけでなく、他者にも分かりやすいアドバイスができるようにしていく。このアドバイザーを活躍させ関わり合いを増やすことで、課題発見・解決へと繋げていきたい。

このような指導の中で、自分や他者の課題を把握、解決していき、学級の皆が高跳びの楽しさを味わえるようにしていきたい。また、毎時間の授業での児童の振り返りを基に学習のめあてを設定することで、児童が意欲的に取り組むことができるようにしていきたい。

5 単元の目標

知識及び技能	高跳びの行い方を知るとともに、短い助走から強く踏み切って高く跳ぶことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けている。

6 単元の評価規準

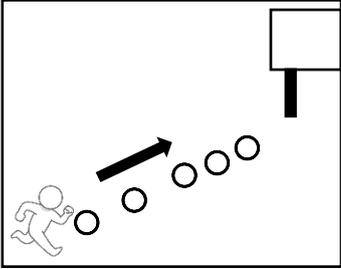
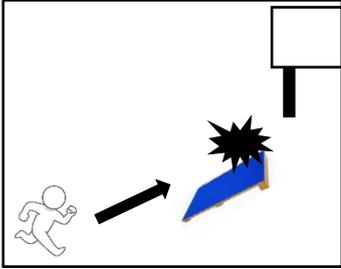
知識・技能	・高跳びの行い方を理解している。 ・短い助走から強く踏み切って高く跳ぶことができる。
思考・判断・表現	・自己の能力に適した課題を見付けている。 ・動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫している。 ・考えたことを友達に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	・運動に進んで取り組もうとしている。 ・きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたりしようとしている。 ・場や用具の安全に気を付けている。

8 本時の学習展開

(1) 本時の目標

- ・動きを身に付けるための活動を工夫したり、考えたことを友達に伝えたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 学習の展開

主な学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て ☆児童の気付き RT・・・リフレクションタイム ◎共生の視点 ■関わり合いの視点	評価(☆) 【評価方法】
1 主運動に繋がる準備運動を行う。 2 慣れの運動を行う。 3 場の準備を行う。 ①助走の課題解決の場 ②踏切りの課題解決の場 4 前時の高跳びの様子を ICT 機器を活用して確認する。 ①助走に関する例 ②踏切りに関する例 5 本時のめあてを確認する。	◇1つ1つの運動の意味を理解させ、取り組ませる。 ◇試しの運動とミニ記録会に繋がるように、リズムよく走ることや、力強く踏み切ることを意識させる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 慣れの運動(助走) 【リズムひもタッチ】 トン・トン・ト・ト・ドンの5歩助走を意識して行う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 慣れの運動(助走) 【ドン!ひもタッチ】 踏み切り板で音をしっかりと出すことを意識して行う。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> ◇安全に気を付けてチームごとに準備をさせる。 ◇映像で確認し、うまくいかなかった原因を予想させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ☆児童の気付き ①助走に関する例 →タイミングが合っていないのかな。 →速く走りすぎているのかな。 ②踏切りに関する例 →足がゴムより下にあるからいけないのかな。 →踏み切る場所が悪いのかな。 </div>	
自分の課題をクリアし、高跳びをレベルアップさせることができる。		
6 試しの運動(1)を行う。	◇自分の課題に合った場所に行き、助走と踏切りに視点を絞って取り組ませる。 ■アドバイザー(スタンド近くで他者が跳ぶ様子を見る児童)を用意し、友達の動きを伝えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【RTに繋がる働きかけ】 観察する視点を焦点化し、友達の動きの良さや課題に気付かせる。(助言・評価・問いかけ) </div>	

<p>7 【やわつ】RTを行う。 →やったこと 分かったこと 次にやること (全体での振り返り)</p>	<p>【RTの教師からの発問】 ・どうして〇〇くんはうまくいってるのかな？</p> <p>☆児童の気付き ・助走のリズムがいいからです。 ・力強く踏み切っているからです。</p> <p>➡</p> <p>キーワード ・リズム ・力強く</p> <p>◆リズム、力強くをイメージしにくい児童には、RT人形で動きの流れをコマ送りで見せるようにする。</p>	<p>☆自分の課題を解決するための動きを見付けることができる。 (思考・判断・表現) 【行動観察】 【ワークシート】 【発言】</p>
<p>8 試しの運動(2)を行う。</p>	<p>今日のポイント 助走は速さではなく、リズム 踏み切るときは膝を曲げて力強く</p> <p>◇RTのキーワードを意識して、運動に取り組ませる。</p> <p>◎友達の動きを見るときにキーワードを意識したアドバイスをする。</p>	
<p>まとめ リズムよく助走し、力強く踏み切ることにより高く跳ぶことができる。</p>		
<p>9 ミニイルカカップを行う。(記録会)</p>	<p>■<u>チームに分かれて、計測や審判等、自分たちで協力しながら記録会を行う。</u></p>	
<p>10 場や用具を片付ける。</p>	<p>◇安全に気を付けてチームごとに片付けをさせる。</p>	
<p>11 【よちち】RTを行う。 (ゴールの姿の確認)</p>	<p>【RTの教師からの発問】 ・イルカカップでは、どんな高跳びをしたい？</p> <p>☆児童の気付き ・リズムと力強くに気を付けて跳んで、最高記録を出したいです。</p>	
<p>12 振り返りをする。 (個別での振り返り)</p>	<p>◇自分の課題を解決するために考えたことやRTのキーワードを基に振り返らせ、次時に繋げるようにする。</p>	

視点1 効果的なリフレクションタイムであったか。(視点：手法、発達段階、場面設定)

- 何のために何を話すのか明確になるRT だった。
- ORT の前後をルーティン化していることで、子供たちも運動しやすかった。
- ORT 人形 (Mr.RT) は発達段階に合っている教具だった。
- 慣れの運動から試しの運動に繋がる流れが良かった。→RT がスムーズだった。
- ORT で児童にやってもらうことで分かりやすさに繋がる。
- ORT で足音を聞かせることでリズムを感じさせることができた。
- よから RT での目標の変容を児童にしっかりと実感させたい。

視点2 教材や場の工夫は、児童が学習のねらいを達成することに有効であったか。

- 活動の1つ1つにけじめがついていた。→活動をパターン化している。
- グループの分け方がよかった。
- ペットボトルを活用してバーを動かないようにしていた。
- できる児童ができない児童へ配慮していた。
- リズム・ドン！が意識している児童がなぜ跳べないのか
→振り上げ足が曲がって引っかかっている。※ねらいにしても良かった。
慣れの運動 (例) 高い場から低い場へ跳ぶことで身に付く。
- 知識・技能をある程度身に付けていた。できないという壁に当てることで児童も更に思考を深めることができる。※バーの高さを一定にして練習せず、高くしていく。
- マットの滑り止めをひいておくと良かった。
- アドバイザーの視点を伝えると良かった。→できる喜びへ繋げていく。

教頭先生より

- 教具の工夫がたくさん見られた。
- 児童1人1人が聞いたことをできるようになっていた。
- 発表の仕方：言葉で伝え合う、自分がなぜそう思ったのかまで言えるようになると良い。
- 知識・技能をしっかり身に付けることができている。→それでもうまくいかない=課題
- RT は跳べていない児童を見本にしても良かった。(みんなで課題解決→他の人のヒントになるかも)

校長先生より

- 慣れの運動や試しの運動で児童への問いかけをしっかりとしていた。
- 準備運動を主運動に繋がるようにしていく。
- 児童のつまずきの場面を見せることで解決に繋がる。
- 本時の目標・ねらい・振り返りの繋がりを教師がしっかりとっておく。
- チーム同士でリズムを言いながら跳ぶ→感覚を身に付けさせる。

